



東京部会(第114回)

日時: 2020年1月30日(木) 19:00-21:15

場所: 慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室

参加者: [順不同・敬称略] 篠原、加藤、杉浦、宮崎、杉田、中山、藤牧、中原、込山、鈴木、岡部、中村、新井の13名

1 12月の「冬休み経済教室」の総括が行なわれた。

- ・参加者94名で、事前の予想を超えて盛況であった。
- ・当日の記録をもとに、内容の確認と成果を行ない、入試改革と授業改善の取組みは今後も継続することを確認した。
- ・あわせて、この種の研究会での配付資料の著作権に関する配慮事項の確認、および生徒の読解力低下問題をとりあげた新聞の解説(日経新聞教育面)の紹介があった。

2 沖縄の経済教室の報告があった。

- ・講演者の宮崎美喜男先生(都立国際高等学校)から、新科目「公共」の指導計画で社会保障と租税教育に関する内容を4時間程度の授業案として提示したとの紹介があった。
- ・篠原代表からは、河原先生の講演内容と、篠原代表ご自身が話した、教科書の考え方、使い方の概容の説明があった。特に、教科書では、現在の教科書は何を考えさせようとするのかのメッセージが伝わるものとなっていない。教科書の読み解きと、授業での使い方に関する研究が必要ではないか、という指摘があった。

3 参加者からの実践報告と検討、報告があった。

(1) 中原啓太郎先生(中央大学附属横浜中学校・高等学校)から、中学三年対象の「正月の新聞2020」という実践報告があった。

- ・これは、毎年元旦の新聞各紙(7紙)を素材にして、一面の記事と社説の概略を紹介する授業で、経済分野の「豊かさとは何か」のまとめと、これから扱う国際分野の導入の位置づけの授業である。
- ・各紙の記事や社説の解説、特徴の紹介を柱として、「あなたの考える豊かさ、幸せ」を課題としたミニレポート、最後に正月の広告の紹介をする流れの1時間の授業である。
- ・検討、討論では、参加者から新聞を授業でどう扱っているかの紹介があり、まとめとして、新聞を使ってどのような教育をするのか原点にたって考える必要があるのではないか、という篠原代表のコメントがあった。

(2) 2020年のセンター試験の問題分析と検討の資料が配付された。

- ・時間の関係で、内容の検討ができずに配付資料の説明のみとなった。

4 参加者からの報告があった。

- ・一つは、HPのリニューアルの状況説明があった。
- ・もう一件は、鈴木深氏と岡部ちはる氏(東京証券取引所)からは、2020年の「夏休み経済教室」に関する日程、会場の確認(8月6日・7日大阪、8月20日・21日東京、会場は大阪取引所、東京証券取引所)と、東証枠のプログラム案の提示があり、次回東京部会で内容骨子の検討を行なうことになった。また、東証が現在各学校に紹介している教材を、新学習指導要にむけてリニューアルする計画があることが紹介された。

(記録・文責: 新井)



次回の開催予定、3月13日(金)19:00～21:00 慶應義塾大学三田キャンパス研究棟446号会議室。  
熊田亘先生(筑波大学附属高等学校副校長)を招いて授業実践の紹介、「夏休み経済教室」のプログラム案  
検討他。